

第一生命グループが守り続ける「お客さま第一主義」の精神

創業110周年を迎えて

創業者 矢野恒太のこころ

1902(明治35)年9月15日、当社は、日本で最初の相互主義による保険会社として矢野恒太によって創立されました。

矢野は創立当初より、「徹底した堅実経営、お客さま重視の姿勢、厳重な選択と寛大な支払い、最大たるより最良たれ」といった当社の特色を宣言していました。当社は、保険料払込猶予期間が過ぎても、解約返還金がある限り自動的に会社側が立て替え、契約を失効させない制度や、解約返還金を限度とした契約者貸付制度を先駆けて設立したほか、保険金のお支払いに関する免責事由についても緩和して設定しました。このように、創立当初からお客さまの利便性を第一に考えた取り組みには、「お客さま第一主義」の精神が色濃く表れています。



矢野恒太

お客さまと共に歩み続けた110年

日本で初めての相互会社としてスタートした当社は、当初から「お客さま第一主義」という経営理念に基づいて事業を営んできました。創業当時より徹底した経費節減に努め、初年度から剰余金を計上し、1906年から契約者配当金の支払いを開始しています。また、1923年の関東大震災という未曾有の被害により、保険会社には保険金等の支払期限を延長する支払猶予令が出されましたが、当社は速やかに保険金等をお支払いし、お客さまからの信用を高めることができました。

昭和に時代が移り変わると、戦争の勃発によって社会経済情勢も大きく変動しました。太平洋戦争終結時には、連合軍総司令部(GHQ)に日比谷「第一生命館」を接収されるなど、戦後の会社再建に苦闘しますが、その後の高度経済成長に後押しされ、順調に事業発展が進みました。1950年代からの日本経済の飛躍的な成長に伴い、生命保険に対するニーズにも変化が見られるようになり、多様化するニーズに応えるため、さまざまな種類の保険を新たに開発しました。

1975年には、お客さまの声を直接伺う場として「お客さま懇談会」を初めて開催し、現在も継続して実施しています。1997年、お客さまへ一生涯の安心をお届けする「生涯設計」というコンセプトを打ち出し、2001年には「お客さま

第一主義」に基づいた生涯設計の理念が評価され、金融保険業界初となる「日本経営品質賞」を受賞しました。さらに2007年、お客さまを大切にするという姿勢をさらに追求していく決意として「品質保証新宣言」を打ち出しています。

そして、2010年4月、相互会社からより柔軟な経営戦略を取り得る株式会社に組織形態を変更しましたが、創業以来の経営理念「お客さま第一主義」を貫き、今後も一生涯の安心を提供する保険会社としてお客さまの「一生涯のパートナー」を目指します。

Topics

GHQによる日比谷「第一生命館」 接収解除から60周年

第一生命日比谷本社は、太平洋戦争終結時、連合軍総司令部(GHQ)の本部として接収され、その後約7年にわたり使用された後、1952年7月接収解除されました。今年の日比谷「第一生命館」返還60周年となり、それを記念して当時のまま保存されている「マッカーサー記念室」を期間限定にて一般公開しました。



マッカーサー記念室

これからの第一生命

2011年に発生した東日本大震災を通じて、当社は生命保険の原点である「安心の絆」を再認識しました。「安心の絆」とはお客さまと大切な人との結びつきを確かなものにしていくという、私たちが担っている社会的責任です。

当社はこれからも、いつまでも、「安心の絆」をお届けし、「一生涯のパートナー」として、お客さまのお役に立てるよう全力で取り組んでいきます。

安心の絆

人は、ただ今日を過ごすためだけに
生きている訳ではありません。
その先に続く未来を想いながら生きているのです。

そんなとき、人は明日を信じられる
確かなものが欲しくなります。

保険は、人がいつの時代も求めてやまない
「安心」をかたちにしたもの。

保険は、人と人との絆でつくる、
安心の贈り物。

みんなに平等にやってくる明日のために。
幸せを願う、すべての人のために。

第一生命のあゆみ ～お客さまと共に～

